

2021.1.3 1月第一主日礼拝

ハガイ2:15-19「立ち止まり、考えよ」

聖書

15 さあ今、あなたがたは、今日から後のことをよく考えよ。主の神殿で石が積み重ねられる前、

16 あなたがたはどうであったか。二十の麦束が積んであるところに行っても、あるのは十束。ぶどう酒五十杯を汲もうと石がめに行っても、あるのは二十杯。

17 わたしはあなたがたを、あなたがたの手が作ったすべての物を、立ち枯れと黒穂病と雹で打った。しかし、だれ一人わたしに帰って来なかった。——主のことば——

18 さあ、あなたがたは今日から後のことをよく考えよ。第九の月の二十四日、主の神殿の基が据えられた日から後のことをよく考えよ。

19 種はまだ穀物倉にあるのか。ぶどうの木、いちじくの木、ざくろの木、オリーブの木は、まだ実を結ばないのか。今日から後、わたしは祝福する。」

はじめに

2021年の教会が歩むべき道を祈り求める中で、ハガイ書2章15節、18節「さあ今、あなたがたは、今日から後のことをよく考えよ。」のみことばに導かれました。このみことばから今年の教会目標（標語）を「祝福の扉を拓く」とさせていただきます。今日からしばらく教会目標に関連するみことばを味わって行きたく願っています。今日は2021年最初の礼拝となりますので、この教会目標に導かれた理由を考えてみたいと思います。お話に入る前に、旧約聖書の「ハガイ書」を開く機会はありません。でも豊田教会の皆さんは2019年にエズラ記、エステル記、ネヘミヤ記を学び、その中で一回だけですがハガイ書から学んでいます。実はハガイ書とそれに続くゼカリヤ書はエズラ記と深く繋がっており、バビロン捕囚から帰還したイスラエルの歴史と関係しているのです。帰還した民の現状とコロナでいろいろな

ことが制限されている教会の現状とが繋がりました。そのような中でハガイ書から励ましをいただいたのでそれをお分かちします。

1. ハガイ書の時代背景

ハガイは旧約の預言者です。ハガイが神さまのことばを発したのは、「ダレイオス王の第二年、第六の月の一日」（ハガイ 1:1）でした。以前に学んだことの復習になりますが、ハガイが神さまのことばを発した理由を知るために、当時のイスラエルを取り巻く状況を簡単に整理しておきます。

イスラエル国家は紀元前 586 年に新バビロニア帝国（以後バビロンと呼ぶ）により滅ぼされてしまい、エルサレム神殿は破壊されてしまいました。その時、イスラエルの民の一部はバビロンに捕囚となって連れて行かれましたが、民が捕囚となってバビロンにいる間に、ペルシャ帝国がバビロンに代わって台頭してきたのです。ペルシャのキュロス王がバビロンを倒したとき、キュロスは捕囚となっていたユダヤ人を解放し、エルサレムに帰還させて壊れた神殿再建の命令を出したのです。キュロスの勅令が発布されたのが紀元前 538 年。ユダヤ人はエルサレムに帰り、早速壊れた神殿の再建に取りかかりました。そして 2 年後の紀元前 536 年に神殿の基礎が完成したのです。ところがエルサレム神殿の再建を脅威に感じた人たちがいて、基礎工事完成以後の再建を妨害し工事は中断させられてしまいました。中断期間は実に 18 年間（16 年間とする立場もある）に及び、その間にユダヤ人たちの神殿再建の熱は冷め、自分たちのことに没頭する生活へと変わってしまったのです。

そこで神さまは、神殿再建のために民を立ち上がらせようとハガイを遣わし、奮起を促したわけです。一旦熱が冷めたものに再び熱を入れるのは大変です。かなり強力なメッセージが必要であり、その任を託されたのがハガイでした。ハガイがメッセージを語ったのは「ダレイオス王の第二年、第六の月の一日」（ハガイ 1:1）、つまり紀元前 520 年のことでした。これがハガイ書の歴史的背景です。

2. ハガイの時代と今日の共通点

今年の歩みを展望する中でハガイ書の歴史的背景と今年の教会の現状とが重なりました。バビロンから解放され、神殿再建という目標に向かって出発し、基礎までできていよいよ上物を建てようとしたところで妨害により中断。その結果士気は萎え、目標も霞んでしまった当時のイスラエルの民は、まるで今の教会の現状と同じではないかと思ったのです。2019年の年初には次の時代を見据えて子供たちの育成に力を入れようと計画していました。またキリスト教の障がい者施設の施設長（牧師）の講演会も計画していました。個人的には施設見学も予定していましたが、ほとんどのものが中止に追い込まれました。教会の聖餐や愛餐や昼食会などの交わりも中止したままです。唯一伝道セミナーが開催できたことは救いでしたが、「さあ、これから」と思った矢先の感染症との戦いで、この先どうなるのだろうかと不安が募るばかりです。

そのような中で神さまは 15 節と 18 節のみことばを示してくださったのです。神さまは「さあ、あなたがたは今日から後のことをよく考えよ。第九の月の二十四日、主の神殿の基が据えられた日から後のことをよく考えよ。」と言われました。第九の月の二十四日は、神殿の基が据えられた日であり、ハガイに主のみことばがあった日（2:10）です。その日から後のことをよく考えよと。民が神殿工事の中断に至った理由は色々と並べることができるでしょう。敵の妨害があったのだから仕方がない、飢饉があって神殿工事どころではない（16, 17 節）など、外的要因を上げて工事中断を正当化することはできるかもしれません。しかし、ハガイはそうした外的要因を認めながらもそれ以上に民の心の在り方を問題視したのです。神さまへの信仰はどこへ行ってしまったのかと問い直しているのです。確かに今の教会活動の現状は外的要因が大きいことは認めますが、それに引っ張られて私たちの信仰まで萎えてしまっていないだろうかと探られます。歯車が狂ってしまったかのように見える現状に対して、神さまは何と言っておられるのか耳を傾ける必要がある

と感じています。

3. 立ち止まる勇氣

人生の中で襲ってくる出来事は、私たちの歩みにストップをかけることがあります。これからのことを考えるように導くために、神さまはある問題を持って来られることがあるのではないだろうかと思います。たとえば病を抱えたり、事業に失敗したり、受験に失敗したりと思うように行かない出来事に遭遇するとき、それはそこで一旦立ち止まるように語っておられる神さまからのメッセージかもしれないのです。ハガイもそのことを17節で語っており、神さまは飢饉や災害の中で民がご自分の元に帰ってくることを期待されたのですが、「だれ一人わたしに帰って来なかった。」と言っています。足を止めて神さまに立ち返るチャンスだったのに、誰も足を止める人はいなかったのです。

2021年を展望するとき、去年できなかったことに対してリベンジするような感覚で果敢に取り組むのもありかもしれませんが、ここは一旦立ち止まって「今日から後のことを考える」機会にすることも益ではないだろうかと思います。今年教会は46年目の歩みに入っていきます。あと4、5年で50年（または50周年）を迎えます。少子高齢化が加速する時代に耐え得る教会形成とはどのようなものなのだろうか。感染症で人との接触が制限される中でどのようにキリストのからだとしての交わりを保って行ったら良いのだろうか、福音を届けるために私たちはどうあることが期待されているのだろうか、考えてみればたくさんの課題があるわけで、今立ち止まって考えなければ、問題が深刻化した時には手遅れということもあり得ると思います。教会の歴史がそうであるように、個人の歩みにおいても自分や家族の将来を考えることは大切ではないでしょうか。

4. 今日から祝福する

「今日から後のことをよく考えよ」と言われる神さまは、考えた先にある

祝福を見せてくださるお方です。「種はまだ穀物倉にあるのか。ぶどうの木、いちじくの木、ざくろの木、オリーブの木は、まだ実を結ばないのか。今日から後、わたしは祝福する。」(19 節) というみことばは将来の祝福を約束するものです。これの意味するところはこうです。種はすでに畑に蒔かれました。ですから穀物倉には種はありません。しかしまだぶどうの木もいちじくの木もざくろの木もオリーブの木も、何一つ実を結んではいません。でも種は蒔かれたのです。後は神さまが実を結ばせてくださることを信じて待つだけです。

今年の教会目標を「祝福の扉を拓く」としました。私たちが教会のことや個人に関わることなど、今日から後のことをよく考えたなら、後は神さまが「今日から後、わたしは祝福する」と約束してくださるのです。一人で悩んだり考えても、祝福の扉を拓くところに至らないかもしれません。みんなで祈り、思いを分かち合うなら、必ず祝福の扉に手をかけることができると信じています。次に時代を見据え、みんなで意見交換しながら、主の導きを仰いで行きましょう。

まとめ

2009 年にある牧師が私に一枚の紙切れを渡してくださいました。今その先生はご高齢になられ施設に入っておられます。その紙には「急がない、威張らない、いじけない」の 3 つだけ書かれていました。私の性格を見抜いて、これが伝えることができる最後かもしれないと思って渡して下さったのだと思います。実を射ています。教会活動が思うように進まない中で、あれこれ考えて苛立つよりは、ここは一旦立ち止まることが御心だと確信しました。「今日から後のことをよく考えよ」と語られた神さまの声とこの紙切れのことばが妙に一致したのです。今日から後にあるものは、神さまの祝福です。祝福が用意されていることを握って地に足をつけて 2021 年を歩んで行きましょう。教会と皆さんの祝福をお祈りします。